

コミュニティ・サロンにおける世代間交流の実施による地域活性化の効果に関する研究

杉本 豊和・西方 規恵・井原 哲人・久田 はづき・森山 千賀子

本研究の目的は、コミュニティ・サロンの運営に参画することを通して、サロン運営の問題点や課題を抽出し、サロン運営・世代間交流の実際を通じての地域活性化とその効果について検討することである。

2013年2月に、地域住民を中心に白梅学園大学関係者も参画しながら運営する、コミュニティ・サロン「ほっとスペースさつき」が誕生した。また、昨年度は二つ目のコミュニティ・サロンとして「ほっとスペースきよか」が立ち上がり、2015年の5月には本格的に開所した。

コミュニティ・サロンの運営には、①場所、人材、費用の確保が必要であること、②地域住民と大学関係者も含んだ準備会などを重ねながら作っていくことが、その後のサロン運営の円滑さや地域活性化には重要であることを、ホットスペースさつきの前例も踏まえ確認することができた。



「きよか」の前でお餅つき (2014.12. 28)

コミュニティ・サロンという地域の居場所に、地域の方々、大学関係者、学生などが三々五々に集うこと自体が、世代間交流になっている。その一方で、心の病、認知症の人とそこご家族、食物アレルギーのあるお子さんなどの来訪もあり、スタッフがどのように対応すればよいかという課題も浮上した。そこで、「ほっとスペースさつき」

では、スタッフとして、また、地域住民としての気配りを学ぶために、下記の学習会（公益財団法人草の根育成財団の平成26年度助成）を開催した。

○食物アレルギーのお子さんに必要な気配り・救急処置の基本とAEDの使い方、講師：小林美由紀（白梅学園大学教授）・小平消防署、小川公民館にて(2014.9. 28)

○認知症サポーター養成講座・事例に学ぶ認知症の人の理解と家族・地域支援、講師：地域包括支援センターけやきの郷職員と大橋千枝さん（白梅学園大学非常勤師）白梅学園大学にて(2014.11. 8)



食物アレルギーの学習会の風景

今年度の研究では、コミュニティ・サロンの実施による地域活性化の効果を具体的に検討することはできなかった。次年度に向けては、個々のニーズを地域住民のニーズとして、どのように他の資源に繋いでいくか、こういったことも、サロン運営を通じた地域活性化に向けた課題であると考えらる。(文責:森山千賀子)